

第1回 国立大学法人情報系センター研究交流・連絡会議 報告

岩手大学総合情報処理センター長 原 道宏

開催日時: 平成18年9月21日(木) 13:30~17:00

開催場所: 岩手大学 工学部 一祐会館 大会議室

参加者: 弘前大学 3名, 宮城教育大学 1名, 秋田大学 1名, 山形大学 1名,
福島大学 1名, 茨城大学 1名, 筑波大学 1名, 宇都宮大学 4名, 群馬大学 2名,
埼玉大学 1名, 千葉大学 1名, 東京農工大学 2名, お茶の水女子大学 1名,
電気通信大学 1名, 一橋大学 1名, 横浜国立大学 2名, 新潟大学 1名,
山梨大学 1名, 信州大学 2名, 富山大学 1名, 金沢大学 2名, 福井大学 1名,
岐阜大学 3名, 静岡大学 1名, 豊橋技術科学大学 2名, 三重大学 1名,
奈良女子大学 2名, 鳥取大学 3名, 島根大学 4名, 岡山大学 2名,
広島大学 2名, 山口大学 2名, 徳島大学 1名, 愛媛大学 1名, 高知大学 1名,
福岡教育大学 1名, 佐賀大学 3名, 長崎大学 2名, 熊本大学 2名,
大分大学 2名, 宮崎大学 1名, 鹿児島大学 1名, 琉球大学 1名,
岩手大学 4名 計 44 大学 74 人
(欠席: 30 校)

資料等:

1. 第1回国立大学法人情報系センター研究交流・連絡会議参加者リスト
2. 国立大学法人情報系センター長会議, 研究交流・連絡会議開催校一覧
3. 第1回国立大学法人情報系センター研究交流・連絡会議資料
4. 「第2回国立大学法人情報系センター研究交流・連絡会議」及び「第11回学術情報処理研究集会」にかかる委員(案)
5. 学術情報処理研究 No.10

会議次第:

1. 開会
2. 開会の挨拶 岩手大学総合情報処理センター長 原 道宏
3. 開催校挨拶 理事(学術担当)・副学長兼情報メディアセンター長 齋藤 徳美
4. 議事 事前アンケートの回答を参考に議論
5. 第1回国立大学法人情報系センター長会議への要望
「第2回国立大学法人情報系センター研究交流・連絡会議」及び
「第11回学術情報処理研究集会」にかかる委員の確認について
6. 閉会

議事内容:

第1回国立大学法人情報系センター研究交流・連絡会議の会議資料により議事を進行し、事例報告を基に活発な意見交換や質疑応答及び討論を行った。

(ただし、以下の報告は全ての発言を含むものではない。)

議題1 e-Learning システム/CMS の使用状況、運用と問題点

(岐阜大学)

Blackboard を利用している。コンテンツ作成については、各教員が作るのかセンターが作るのかで、若干の意識の違いがある。学生を対象としたアンケート調査により、学生の今後の利用期待が高いことが明らかになった。

(山口大学)

メディア基盤センターの教員組織だけではなく、大学情報機構を構成する事務職員マネジメント部署を発足させた。

(三重大学)

奥村晴彦先生を中心に Moodle を導入している。

(宇都宮大学)

後期からの授業に向けて準備をしているが、どの程度の利用があるか不安はある。導入時点からうまくいった事例があれば学びたい。

(東京農工大学)

当初は CEAS の利用を計画していたが、認証システムとの連携やオーサリングツールとの連携にトラブルがあることが分かり、Moodle を中心とすることに変更した。

(富山大学)

Blackboard, WebCT, Moodle が使用されており、課題の提出や成績が確認でき学生にも好評である。

議題2 センターが開催する講習会、説明会等の電子化の状況

(千葉大学)

「説明会の電子化」の意味が良く分からない、資料の電子化という意味か。

(第1回国立大学法人情報系センター研究交流・連絡会議事務局、以下「事務局」)

電子化されていれば何でも可という意味である。講習会で使用した資料を PDF や PowerPoint としたもの、ビデオ教材などなど全て含まれるとお考えいただきたい。例えば、岩手大学では講義を PowerPoint 資料と同期して自動収録するシステムを導入しているが、そのようなコンテンツも含まれる。

議題 3 2006 年度からの情報処理教育はどのように変わったのか

(山形大学)

発展コースを作ったが、学生が自身の力に合っていない講義を選択することがあり、発展コースでも基礎的な内容を行っていた。このため、2006 年からは元に戻した。

(熊本大学)

学生のほとんどはワープロソフト、作図ソフト、電子メール等のアプリケーションを扱うことができ、平均的なレベルは上がっているようだが、個人ごとの差はこれまでより広がった。

議題 4 研究用計算機の運用について

(東京農工大学)

計算機資源を利用した研究に対する需要は特定の学科に偏っている。センターが所有する計算機資源が学内全体を対象としたサービスとして適正に配分されていない。他大学でどのように解決したかについて伺いたい。

(島根大学)

一部のユーザだけが利用する大型計算機が経費の中で大きな割合を占めており、導入の正当化が難しい。

(大分大学)

規模の大きくない計算機を導入しているが、次期システムでは縮小方向で考えている。

(岐阜大学)

平成 18 年度より科学技術用計算機を廃止し、名古屋大学情報基盤連携センターと契約を結び全国共同利用システムを利用することとした。これにより、ユーザには従来以上の計算環境を提供した上で、科学技術用計算機の経費を他のシステムの整備にあてることができた。

(静岡大学)

利用者一人あたりのコストを考えると導入の正当化が難しい。

(福井大学)

福井大学と福井医科大学との統合の際、すべてのシステムを導入することができなかったため、ユーザによる順位付けの結果、大型計算機を廃止した。現在は、250 台の端末 PC をグリッドとして利用できるようにし、また、端末 PC を 2 年半契約にした。学内からは好評である。

(千葉大学)

引き続き演算サーバを導入した。稼動実績もまずまずである。年 2 回プログラミングの講習会を開催している。

議題 5,6,7,8,9

時間の関係により話題として取り上げなかった。

議題 10 迷惑メール対策とユーザの意識

(金沢大学)

金沢大学での迷惑メール対策については、明日の学術情報処理研究集会にて発表する。

(琉球大学)

迷惑メール対策は実施しているが、毎日がイタチごっこで対応が大変である。迷惑メールの9割程度には対応できているが残りの一割への対応が難しい。

(長崎大学)

ウィルスや SPAM を検知するシステムを運用している。現在は DB に基づいて遮断するシステムを使用しており、個別ユーザのリクエストにはあまり応じられない。個々のユーザにも SPAM 対策をお願いしている。

(宮城教育大学)

SpamAssassin と procmail を使う Web インタフェースを提供している。

(横浜国立大学)

全学生と教職員向けの Web メールを導入し、その迷惑メール自動振り分け学習機能を活用するよう推進している。その他の利用者には、ウィルス駆除ソフトによる迷惑メールの判別機能と振り分け機能を利用してもらっている。

(山形大学)

隔離したメールに誤りがないか確認するためにメールの本文を見てしまう形態では個人情報保護等の問題にはならないか。

(東京農工大学)

うちでは問題になっていない。

議題 11 センター協議会と研究交流・連絡会議の関係について

(埼玉大学)

昨年の研究交流連絡会議で、センター協議会との関係について話題になったが、協議会の活動の一部として研究交流・連絡会議が位置づけられる、関係を整理することが大事だと、埼玉大学をはじめ幹事校の方々と提案した。まずはこれでやってみればいいのか?

(議長)

規約が改正されるというのは、参加広範囲や名称が変わることか?

(埼玉大学)

そういう面もあるが、交流会議と協議会の関係が曖昧だったが、全体を取りまとめる協議会と、その活動の一部としての研究交流会議という形で理解している。

(議長)

アンケートでは明確にすべきだという意見があるがこれでよいか。

(佐賀大学)

センター協議会と研究交流・連絡会議では、議論している内容が異なるので、当面は、それぞれで活動していけばいいのではないか。

(宇都宮大学)

センター協議会と研究交流・連絡会議で参加メンバーが同じになったと理解している。協議会は運営面を主とし、研究交流会議は研究面あるいは技術的な運営面の話をするのが適当だと考えている。

センター長会議の位置づけも明確にするべきである。

(埼玉大学)

センター協議会の規約では、センター長会議の開催も協議会の活動項目となっている。

議題 12

時間の関係により話題として取り上げなかった

議題 13 個人情報保護法に関する日常的な管理や判断について

(岐阜大学)

問題がおきたときの連絡方法については、資料のとおり連絡体制をとっている。具体的には職員向け個人情報保護の基礎知識について e-learning システムで学習&テスト(80点以上になるまで)で全教職員が学習している。全教職員向けに個人情報保護研修会を行い、出席またはビデオの視聴を徹底した。

(徳島大学)

個人情報をできるだけ持たず、システムの運用のための最低限のものしか持たないようにしている。

議題 14 CIO や全学的な情報管理組織の設置状況

(事務局)

神戸大学(欠席)の資料の意見についての解説。

(岩手大学)

CIO が新設された場合、既存の基盤整備をしていた組織との関係はどうなるのか?について発言する。岩手大学の場合は両方共存していて、明確には決めていない。

(弘前大学)

CIO はまだ動いていない。重要なのは名前ではなく、内容を理解している人を選ぶという方針で事務組織が動いている。

(議長)

情報処理センターが CIO をしているわけではなく、教員が補佐となっていることが多いよ

うだ。

(東京農工大)

政府の統一基準による情報セキュリティガイドラインが出来上がりつつあり、それを国立大学法人に読みかえるWGが動いている。

そこでCIOやCISOの位置づけが出てくるはずですので、これから整備される場所は少し待った方がいいと思う。

議題 15, 16

時間の関係により話題として取り上げなかった

センター長会議への要望

「第2回国立大学法人情報系センター研究交流連絡会議」及び「第11回学術情報処理研究集会」にかかる委員について(案)が認められた。

次回の運営委員会と実行委員会、研究会誌発行の編集委員会の構成について確認した。

センター長会議への要望を取りまとめ、提出することとした

第10回学術情報処理研究集会 報告

岩手大学総合情報処理センター長 原道宏

開催日時: 平成18年9月22日 9:30~17:00

開催場所: 岩手大学 工学部 一祐会館 大会議室

研究発表論文数: 14件 (発表15分, 質疑応答5分)

参加人数: 82名